

平成 20 年 7 月 30 日

第 2 次試験受験予定者へ

教 育 委 員 会
試 験 委 員 会

第 2 次試験に向けた勉強を進める上での留意事項

6 月 30 日に「平成 20 年度資格試験要領」を公表しました。多くの受験予定者は、試験合格に向けて、日々試験勉強に取り組まれていることと思います。

資格試験要領に記載のとおり、第 2 次試験は、アクチュアリーとしての実務を行う上で必要な専門的知識と問題解決能力を有するかどうかを判定することを目的としています。しかしながら、非常に残念なことに、第 2 次試験における受験者の解答を見ると、特に、論点を正しく把握し、論点ごとに掘り下げてあるべき姿や対応を示す問題解決能力が、かなり不足していると感じざるを得ません。

これは、受験者の勉強が知識偏重になっているためと思われるのですが、第 2 次試験に合格するには、問題解決能力を身に付けることが必須です。求められる問題解決能力は専門職としての高度な実務能力であり、第 2 次試験のための勉強、特に問題解決能力の研鑽は、今後アクチュアリーとして実務上の課題に取り組むために不可欠なことでもあると思います。

このような問題解決能力は一朝一夕に身に付くものではなく、また、暗記や受験テクニックにより身に付くものでもありません。日々の実務や試験勉強においてアクチュアリーとしての見識や技能を鍛える、たゆまない努力が必要であると思います。

問題解決能力向上のための勉強方法として、受験者の今後の研鑽のために、合格者の取組み事例等を下記のとおりまとめましたので、大いに参考にして万全の準備を行い、自信を持って試験に臨まれることを期待します。

記

1. 不十分な解答内容

第 2 次試験における受験者の解答を見ると、特に、論点を正しく把握し、論点ごとに掘り下げてあるべき姿や対応を示す問題解決能力を判定する出題において、次のような不十分な解答となっているケースが多く見受けられます。

✓ 不十分・不正確な知識、表面的な理解

- ・ 必要な論点を挙げていない。
- ・ 語句やその内容の記述が正確でない。
- ・ 語句の内容は理解していても、それがどういう背景、考え方に基づいているかを理解していない。

✓ **出題内容と解答内容のずれ**

- ・ 所見を問う出題に対して、単なる知識の記述や課題の列挙に終始し、「どうあるべきか」や「そう判断する理由」といった所見が述べられていない。
- ・ 「～の観点から」や「～に言及して」の出題に対して、何も触れていない。
- ・ 問題として取り上げているトピックスに関連はしているが、出題で求めている内容とは直接関係のない事項を羅列している。

✓ **解答文章の構成力・表現力の欠如** (※)

- ・ 概要のみの箇条書きやメモ書きのような解答に留まっている。
- ・ 記述の分量は多くても同じ内容の繰り返しとなっている。

(※) その他、試験全般として、定義することなしに略語を使用している事例や、誤字・脱字や字が汚くて読めない事例等が見られます。

2. 問題解決能力の向上に必要な取組み

第2次試験に合格し、さらには専門職として実務上の課題に取り組んでいくためには、単に専門的知識を身に付けるだけでなく、

- ① 課題に対して、アクチュアリーとして考慮すべき論点を的確に把握する。
- ② 各論点について、アクチュアリーとしての専門的な考察を加えつつ、事実やメリット・デメリット、他への影響、留意点等の整理・深掘りを行う。
- ③ 論点整理等の結果を踏まえ、解決策やその効果、判断理由等を提示する。

といった問題解決能力を身に付けることが不可欠です。

このような問題解決能力を高めていくためには、以下の取組み等に注力することが必要です。

✓ **応用力のある見識・知識の習得**

- ・ 語句や語句の意味を正確に覚えることは言うまでもなく、その背景、考え方等の理解やアクチュアリーとして考慮すべき視点・論点の整理・考察、他の項目との関連付け（関連する項目の整理、相互に及ぼす影響の考察等）等を行うことにより、新たな課題の解決に活用できる見識や知識を身に付ける。

✓ **時事問題の情報収集**

- ・ 教科書に記載がなくても、出題範囲に関わる時事問題も出題対象であり、これらの情報を収集する。（時事問題の情報収集は実務においても重要。）

✓ **問題意識の醸成**

- ・ 日常業務や上記の見識・知識の習得、時事問題の情報収集は、「何が論点か。」「自分はどうか考えるか。」「なぜそのように考えるのか。」「解決のために何をすべきか。」といった問題意識を持って行う。

✓ **文章の構成力・表現力の向上**

- ・ 論点整理や自分自身の考え等が相手（採点者）に正確にわかりやすく伝わるよう、文章の構成力・表現力を身に付ける。

3. 具体的な取り組み事例

これまでの合格者が、問題解決能力を高めるために行った具体的な取り組みのうち、いくつかの事例を以下に紹介します。

✓ **教科書等の読み方**

- ・ 教科書をただ漫然と読むのではなく、問題点や自分はどうかを意識して精読し、理解を深める。（問題点や自分の考えは書き留めておく。）
- ・ （特に初めて第2次試験を受ける場合、）早い段階に教科書を通読し、出題範囲の内容の大枠を理解する。（その上で上記の精読を行う。）
- ・ 保険計理人の実務基準等や保険業法・厚生年金保険法・法人税法等の関連諸法規、監督指針、検査マニュアルの関連する部分を、教科書に準じて精読し、理解を深める。

✓ **時事問題等の情報収集**

- ・ ア会発行の会報・ジャーナルや業界紙等を読む。また、例会や年次大会に積極的に参加する。（参加できない場合も資料をチェックする。）
- ・ 金融庁や厚生労働省のホームページで、関連する審議会の動向やパブリックコメント等をチェックする。

✓ **過去問題集の活用**

- ・ 各問題が、何を問い、どのような解答を求めているかを理解する。（問題文と模範解答のポイントとなる部分にアンダーラインを引く等。）
- ・ 論述問題の模範解答は、教科書に記載されていない論点やメリット・デメリット等も含めて整理されており、精読して理解を深める。
- ・ 模範解答をベースに、出題当時からの状況変化等を踏まえた新たな視点・論点や自らの視点に基づく所見を付け加えて、自分自身の模範解答を作成する。（文章の構成力・表現力のアップにも繋がるという面もある。）
- ・ 試験本番対策として、試験直前は時間を計って過去問を解く。

✓ **論点整理ノートや予想問題等の作成**

- ・ テーマごとに論点を箇条書きした論点整理ノートを作成する。特に気になるものは過去問題集の模範解答等を参考に解答を作成する。（フローチャートによる整理例もある。）
- ・ 用語説明だけでなく、必要に応じて背景や考え方、メリット・デメリット等も含めてポイントを箇条書きにした用語集を作成する。
- ・ 予想問題を作成する。それにより、教科書の内容や時事問題等についてよく考え、十分理解することに繋がる。

- ・ 予想問題の解答を、教科書の他、会報やジャーナル等を参照し、幅広い論点の列挙や各論点の深掘り、適切な論理展開等を意識して作成する。

✓ その他

- ・ 予め勉強の進め方について方針を立て、大まかなスケジュールを組む。
- ・ ①論点やメリット・デメリット等の想起、②骨子の作成、③文章の書き起こしを1時間程度で行えるよう、時間配分を考えて練習する。
- ・ 予想問題や(自力で解いた)過去問題の解答を正会員等に評価してもらう。
- ・ 普段から問題意識を持って業務等を行う。また、アクチュアリアルなテーマや課題について、正会員や受験者等と意見や情報の交換を行う。
- ・ 短時間でも継続的に勉強する。(まとまった時間を使って用語集等を作成し、通勤時間にそれを勉強する等。)
- ・ 論述問題が苦手な場合、小論文の書き方の本等を参考にする。
- ・ 勉強する量が多いが、勉強疲れやストレスを溜めないよう、オン・オフのメリハリを付けて、勉強時の集中力を維持する。

以上